

長田乾	事象関連電位とPETの同時測定.	臨床神経生理学	34(1)	63-66	2006
長田乾、D. Wright、G. Box	運動慣熟過程における機能分化の画像化.	認知神経科学	7(3)	198-2005	2005
長田乾、加藤陽久、齊藤博彦、畑澤順、赫寛雄、内海裕也、他	半側空間無視の回復前後における脳循環代謝病態の推移.	認知神経科学	7(1)	80-84	2005
横山 絵里子	着衣障害のリハビリテーション.	臨床リハ 別冊 / 高次脳機能障害のリハビリテーション (医歯薬出版)		286-290	2006
横山 絵里子、長田 乾	「側頭葉—revisited」.	Clinical Neuroscience	24(5)	539-543	2006
横山 絵里子	脳卒中リハビリテーションの概要. 疾患の特徴とリハビリテーションでの注意点, 各時期のリハビリテーション	リハ実践テクニック「脳卒中」(メジカルビュー社)		2-30	2006
横山 絵里子	リハビリテーションの実際、動作・運動障害.	リハ実践テクニック「脳卒中」(メジカルビュー社)		175-192	2006
児玉典彦、西村裕之、芳川浩男、立花久大	兵庫医科大学病院における脳梗塞軽症用クリニカルパス.	脳卒中クリニカルパス実例集 (メジカルビュー社)		183-193	2006
玉置由子、道免和久	脳卒中患者のリハビリテーションはいつから始めればいいのか? 【脳卒中リハビリテーション 看護ケアに活かすシリーズ】	看護技術	52	564-565	2006
小山哲男、道免和久	脳卒中片麻痺患者はリハビリテーションでどこまで回復しますか? 【脳卒中リハビリテーション 看護ケアに活かすシリーズ】	看護技術	52	652-653	2006

涌波淳子、 <u>道免和久</u>	自己抜管する患者にはどのように対応すればいいですか。【脳卒中リハビリテーション 看護ケアに活かすシリーズ】	看護技術	52	740-741	2006
信岡尚子、 <u>道免和久</u>	拘縮を予防するための訓練について教えてください。【脳卒中リハビリテーション 看護ケアに活かすシリーズ】	看護技術	52	828-8829	2006
宮内貴志子、 <u>道免和久</u>	脳卒中発症後の良肢位の取り方のコツを教えてください。【脳卒中リハビリテーション 看護ケアに活かすシリーズ】	看護技術	52	916-917	2006
島田真一、 <u>道免和久</u>	脳血管撮影ってどんな検査なの。【脳卒中リハビリテーション 看護ケアに活かすシリーズ】	看護技術	52	1004-1005	2006
寺山修史、 <u>道免和久</u>	脳卒中を予防するための日常生活支援のコツはありますか？【脳卒中リハビリテーション 看護ケアに活かすシリーズ】	看護技術	52	1224-1225	2006
宮崎博子、 <u>道免和久</u>	自己抜管する患者にはどのように対応すればいいですか。【脳卒中リハビリテーション 看護ケアに活かすシリーズ】	看護技術	52	1308-1309	2006
川上寿一、 <u>道免和久</u>	脳神経外科術後急性期から回復期のリハビリテーション。総論 脳の機能局在と障害。	Brain Nursing	22	72-77	2006
松本憲二、 <u>道免和久</u>	第1回不動の悪循環と廃用症候群の理解。【廃用症候群の予防とアプローチ】	介護リーダー	11	84-89	2006
當山まゆみ、 <u>道免和久</u>	第2回深部静脈血栓症とその合併症の予防ガイドライン。【廃用症候群の予防とアプローチ】	介護リーダー	11	121-126	2006

宮越浩一、道免和久	第3回関節拘縮による問題とその対策。 【廃用症候群の予防とアプローチ】	介護リーダー	11	122- 128	2006
佐藤健一、道免和久	第4回骨萎縮のメカニズムと予防プログラム。 【廃用症候群の予防とアプローチ】	介護リーダー	11	111- 114	2006
森 明子、上村洋充、 笹沼直樹、梅本静香、 竹林崇、眞淵敏、道免 和久	慢性皮膚炎患者に対する短期間運動療法効果について。	第23回私立医科大学 理学療法学会誌	23	67-70	2006
道免和久	リハビリテーション上肢機能障害 特集 脳卒中治療—最近の話題。	総合リハビリテーション	34	1145- 1151	2006
道免和久	リハビリテーションによる脳の再生、CI療法とその周辺。	現代思想	11	76-87	2006
森下慎一郎、眞淵敏、 笹沼直樹、畠山由架利、 山崎 充、上村洋充、 道免和久、浅野由美	高度肥満児に対する運動療法影響について(第2報)—短期間の集中的訓練と退院後の持ち越し効果について—。	第23回私立医科大学理学療法学会誌	23	15-18	2006
宮越浩一、道免和久、 小山哲男、古荘純次、 小柳健一	脳卒中片麻痺患者に対する上肢機能訓練装置の使用経験。	リハビリテーション医学	43	347- 352	2006
小山哲男、道免和久	脳卒中患者の転帰と急性期入院日数。	Journal of Clinical Rehabilitation	15	869- 872	2006
森 明子、上村洋充、 笹沼直樹、梅本静香、 竹林崇、眞淵敏、道免 和久	慢性皮膚炎患者に対する短期間運動療法効果について。	第23回私立医科大学理学療法学会誌	23	67-70	2006
高橋智、高橋純子、 工藤雅子、米澤久司	寺山靖夫高磁場(3Tesla)MRIにおける黒質緻密層の加齢変化。	日本老年医学会雑誌	44(1)	138	2007

寺山靖夫	EBMに基づいた生活習慣病治療による脳卒中と老年認知障害予防 メタボリックシンドロームと認知症性脳細胞障害.	Mebio	24(3)	150-155	2007
大塚千久美, 米澤久司, 工藤雅子, 金正門, 深浦彦彰, 寺山靖夫, 瀬川昌也	振戦、歩行障害で発症したドーパ反応性ジストニアの一成人例.	臨床神経学	46(10)	740	2006
久喜寛之, 山形宗久, 深浦彦彰, 高橋智, 寺山靖夫	シェーグレン症候群に伴ったと考えられる中枢神経障害に対するタクロリムス治療の検討.	臨床神経学	46(10)	740	2006
桂永行, 大庭英樹, 米澤久司, 石橋靖宏, 水野昌宣, 工藤雅子, 寺山靖夫	梅毒が原因と考えられた正常圧水頭症の1例.	臨床神経学	46(10)	737	2006
小山由晃, 柴田俊秀, 三原正敏, 寺山靖夫	人工呼吸器管理を必要とする重症型ギラン・バレー症候群を9ヵ月間に2回発症した症例.	臨床神経学	46(10)	735	2006
寺山靖夫	【臨床各領域の動向2006-2007】神経.	治療	89(1)	45-53	2007
工藤雅子, 高橋智, 米澤久司, 高橋純子, 柴田俊秀, 小原智子, 寺山靖夫	アルツハイマー病患者における超高磁場MRI灰白質強調画像 PET所見との比較.	脳循環代謝	18(1)	41	2006
深浦彦彰, 高橋智, 西城健, 寺山靖夫	多発性硬化症患者へのinterferon β の外来、短期入院での導入.	神経治療学	23(5)	515-519	2006
佐々木真理, 柴田恵理, 井上敬, 西本英明, 高橋純子, 高橋智, 寺山靖夫	3T MRIの中枢神経系疾患への応用.	日本磁気共鳴医学会雑誌	26(4)	165-172	2006
深浦彦彰, 高橋智, 寺山靖夫	多発性硬化症患者へのIFN- β 導入, 外来と短期入院での試み.	神経治療学	23(3)	320	2006
水野昌宣, 米澤久司, 金正門, 高橋智, 寺山靖夫	可動性上行大動脈血栓に由来した脳塞栓症2例の診断と治療.	神経治療学	23(3)	255	2006

水野昌宣、大庭英樹、三條克巳、佐藤雄一、工藤雅子、高橋智、米澤久司、寺山靖夫	頭痛、記憶力障害で発症し両側側頭葉内側に病変を認めた橋本脳症の1例。	臨床神経学	46(5)	365	2006
桂永行、石橋宏、米澤久司、大塚千久美、檜澤公明、深浦彦彰、寺山靖夫	一側手指の感覚障害で発症した皮質梗塞の1例。	臨床神経学	46(5)	363	2006
木村宗孝、佐藤典子、石橋靖宏、寺山靖夫	脳卒中患者の自宅退院に対する家族の意識調査 入院時と退院時の比較(1)。	リハビリテーション医学	43	S199	2006
佐藤典子、木村宗孝、石橋靖宏、寺山靖夫	脳卒中患者の自宅退院に対する家族の意識調査 入院時と退院時の比較(2)。	リハビリテーション医学	43	S199	2006
工藤正孝、佐藤敏郎、吉田樹由、田村乾一、工藤雅子、寺山靖夫、永井謙一	糖尿病および両足糖尿病性壊疽を合併したCharcot-Marie-Tooth(CMT)病1A型の1例。	糖尿病	49(4)	308	2006
高橋智、寺山靖夫	【Alzheimer病の診断Update】 Alzheimer病と認知症の疫学(世界と日本)。	Mebio	23(6)	12-21	2006
寺山靖夫	【t-PA時代の脳梗塞治療】 脳卒中評価スケール。	成人病と生活習慣病	36(5)	513-516	2006
高木 誠、鈴木則宏、星野晴彦	急性期から慢性期のアスピリンをどう使うかー日本における脳卒中の実情と薬物治療のあり方ー。	Mebio Brain & Mind 2006		110-115	2006
小川 彰、篠原幸人、高木 誠	t-PA時ダイアの脳梗塞治療ー第一線の先生方にきくー。	成人病と生活習慣病	36	477-487	2006
成富博章、永金義成、高木 誠	穿通枝領域におけるラクナ梗塞の診断と治療。	日経メディカル		1-4	2006
守屋里織、高木 誠	脳動脈解離。	内科	97	790-795	2006
高木 誠	脳卒中予防に関連する事項 3.頸動脈病変。	Prog.Med.	26	1233-1237	2006

足立智英、高木 誠	脳卒中の初期診断のポイント.	診断と治療	94	967-971	2006
高木 誠	脳の血管.	暮らしの風	6	26-27	2006
高木 誠	脳卒中予防のための抗凝固・抗血小板療法.	東京都医師会雑誌	59	27-33	2006
後藤 淳、荒川千晶、守屋里織、村井麻衣子、足立智英、浅田英穂、安芸都司雄、春原則子、高木 誠	市中病院神経内科における正常圧水頭症診療上の諸問題について.	医療	60	500-503	2006
高木 誠	脳卒中治療の最近の進歩と脳卒中センターの意義.	東京都病院薬剤師会雑誌	55	5-9	2006
高木 誠	NINDSのCVD-Ⅲ分類(1990)は現在でも有効か.	日本臨床 増刊号7	64	51-55	2006
高木 誠	脳梗塞の治療戦略 急性期薬物療法.	神経治療	23	623-628	2006
高木 誠	脳動脈解離.	脳神経	58	963-970	2006
守屋里織、足立智英、後藤 淳、荒川千晶、溝井令一、高木 誠	テント上Branch atheromatous disease(BAD)の画像所見と予後.	脳卒中	28	504-509	2006
後藤 淳、高木 誠	頸動脈狭窄の治療－保存的治療－.	日本臨床 増刊号8	64	737-743	2006
植田敏浩、高木 誠	TIAにおける脳循環代謝異常－PETによる研究－.	日本臨床 増刊号8	64	297-302	2006
足立智英、高木 誠	ラクナ梗塞とbranch atheromatous disease.	日本臨床 増刊号8	64	155-159	2006

足立智英、高木 誠	頭痛のコールに対応する.	臨床研修プラクティス	3	12-17	2006
植田敏浩、高木 誠	症候性頭蓋内動脈狭窄病変の疫学と病態.	医療ジャーナル	43	702-707	2006
高木 誠	脳卒中の症候学.	ファーマナビゲーター 脳卒中 (メジカルビュー社)		156-161	2006
高木 誠、岡島康友、城美奈子、河原加代子、鈴木由佳	第1ステージ卒中発作ほか.	あなたの家族が病気になったときに読む本 (講談社)			2006
高木 誠	意識障害.	内科学 (医学書院)		174-179	2006
荒川千晶、高木 誠	脳動脈解離に抗血栓薬を使用すべきか.	EBM 神経疾患の治療2007-2008 (中外医学社)		46-49	2007
高木 誠	フェニトインほか.	治療薬マニュアル2007 (医学書院)		P239ほか	2006
大江洋史、神鳥明彦、宮下 豪、緒方邦臣、小仲 邦、佐古田三郎、成富博章	慢性ふらつき感を訴える高齢者の病態生理と治療法.	日本生体磁気学誌	19	78-79	2006
大江洋史	めまいと脳卒中.	ライフメディコム	印刷中	10-13	2007
棚橋紀夫	脳血管障害慢性期の血圧管理目標と推奨薬剤は.	EBM 神経疾患の治療2007-2008 (中外医学社)		102-104	2006
中里良彦、園田健一郎、千田美穂、田村直俊、荒木信夫、棚橋紀夫、島津邦男	両側視床病変による意欲低下、見当識障害で亜急性発症した直静脈洞血栓症の1例.	臨床神経学	46(9)	652-654	2006

古屋大典、棚橋紀夫、荒木信夫、島津智一、名古屋春満、加藤祐司、伊藤康男、二宮充喜子、島津邦男	心原性脳塞栓症の機能的回復に対するエダラボン早期投与の効果.	脳卒中	28(2)	291-296	2006
棚橋 紀夫	脳卒中とレニン-アンジオテンシン系.	日本臨床	64(6)	1191-1199	2006
棚橋 紀夫	脳血栓症.	診断と治療	94(6)	:999-1005	2006
棚橋 紀夫	脳血管障害と自律神経.	自律神経	43(2)	112-116	2006
棚橋 紀夫	脳梗塞慢性期治療と糖尿病.	分子脳血管病	6(1)	56-60	2007
間嶋満	循環機能の老化と廃用—予防と廃用.	総合リハ	34(7)	633-636	2006
間嶋満	運動器リハビリテーションの進め方—運動と循環系—.	リウマチ科	36(2)	123-128	2006
間嶋満	脳卒中患者とインスリン抵抗性.	臨床スポーツ医学	23(10)	1191-1195	2006
田中耕太郎	MS多発性硬化症とともに生きる.	医学書院出版サービス			2006
道具伸浩、高嶋修太郎、田口芳治、笹原悦子、井上博、田中耕太郎	神経内科地域基幹教育病院における、成人発症急性脳炎と臨床的に診断した症例の、臨床・画像・予後に関する検討.	臨床神経学	46	533-539	2006
田口芳治、高嶋修太郎、猪又峰彦、道具伸浩、田中耕太郎	潜在性Sjögren症候群に併発した脊髄炎の1例.	内科	97	935-938	2006
田口芳治、高嶋修太郎、箭原康人、菊川哲英、道具伸浩、田中耕太郎	拡散強調画像が診断に有用であった脳膿瘍の1例.	脳と神経	58	450-452	2006

田口芳治、高嶋修太郎、道具伸浩、田中耕太郎	乾燥症状に先行したsjögren症候群に伴う脊髄炎の2例—MRI所見の特徴について—.	脳と神経	58	701-707	2006
田口芳治、高嶋修太郎、野口京、道具伸浩、田中耕太郎	頭部造影MRIとMRAで経時変化を観察した感染性心内膜炎に合併した脳血管病変.	脳と神経	58	879-883	2006
田口芳治、高嶋修太郎、田中耕太郎	皮質性手口感覚症候群を呈したMELASの1例.	内科	98	919-920	2006
香月有美子、鈴木重明、高橋勇人、佐藤隆司、野川茂、田中耕太郎、鈴木則宏、桑名正隆	重症筋無力症を伴うGood症候群の一例—免疫機能評価に関する検討.	Jpn. J Clin. Immunol.	29	102-106	2006
田口芳治、高嶋修太郎、清水正司、野口京、道具伸浩、田中耕太郎	123-Iomazenil脳SPECTで経時変化を観察したMELASの1例.	富山県臨床核医学研究会記録集	12	9-12	2006
田口芳治、高嶋修太郎、野口京、平野恒治、道具伸浩、豊田茂郎、田中耕太郎	中大脳動脈狭窄症におけるFAIR(flow-sensitive alternating inversion recovery)法を用いた脳循環動態の評価.	BRAIN and NERVE	59(2)	178-180	2007
田口芳治、田中耕太郎	原著を探るLeuko-araiosis.	Clinical Neuroscience	24	352-353	2006
田中耕太郎	脳卒中の危険因子とその対策—高血圧.	診断と治療	94	935-942	2006
田中耕太郎	高血圧治療による脳卒中予防のエビデンス.	Mebio	23	6-13	2006
田中耕太郎	脳保護療法の意義.	Therapeutic Research	27	1668-1674	2006
田中耕太郎	頭蓋内血管の収縮による頭痛の有無.	日本医事新報	4263	110-111	2006

田中耕太郎	脳血管障害と高血圧治療.	ひみ医師会報	60	4	2006
久住呂友紀、田中耕太郎	Neuromyelitis Optica特異的血清中自己抗体:多発性硬化症との鑑別に有用.	Medical Briefs in Brain & Nerve	15	5-6	2006
田中耕太郎	フリーラジカルスカベンジャーの臨床応用-脳.	Pharma Medica	24(sup pl.)	45-47	2006
田中耕太郎	脳梗塞実験モデルの変遷, 現状と課題.	日本臨床	64(増刊7)	115-121	2006
田中耕太郎	脳血流低下による虚血性細胞傷害メカニズム.	日本臨床	64(増刊7)	139-145	2006
棚橋紀夫、片山泰朗、田中耕太郎、植松大輔	進化する脳卒中治療.	Medical Tribune	39	82-83	2006
田中耕太郎	多発性硬化症の診断基準: McDonald診断基準の2005年改訂版.	Medical Briefs in Brain & Nerve	15	7	2006
田中耕太郎	脳卒中に対するJELISサブ解析.	Medical Tribune	39	64	2006
田中耕太郎	イコサペント酸エチルが脳卒中の再発を有意に抑制.	Japan Medicine	1268	19	2006
田中耕太郎	コクランレビューUp to Date(第13回).	分子脳血管病	6	94-99	2007
川原範夫、富田勝郎、野村忠雄、井上雄吉、長田茂樹	頸椎後弯変形を伴った脳性麻痺の頸椎症性脊髄症の一例.	日本脳性麻痺の外科研究会誌	16	45-46	2006